

平成21年度第2回中原区区民会議課題調査部会会議録

○日 時 平成21年11月13日（金） 午後2時00分～午後4時17分

○場 所 中原区役所5階505会議室

○出席者 川連委員、鈴木委員、竹井部会長、芳賀委員、藤嶋委員、吉房副部会長
（事務局）小野寺副区長、企画課：齋藤課長、織裳主査、櫻井主査、小木曾主任、
石渡職員、鈴木職員
（行政関係者）地域振興課：廣井課長、川添課長補佐、飯塚課長補佐、河内山職員、
本多職員

○傍 聴 なし

○報 道 なし

○次 第

1 開会

2 会議録確認委員の選任

⇒川連委員を選任

3 議題

（1）第4回中原区区民会議の振り返り

（2）課題解決に向けた取り組み等について

○事務局：資料1、2、3、参考資料1、2に基づき説明

○竹井部会長、川連委員：参考資料3に基づき説明

（主な意見）

- ・ 委員から出された魅力に、玉川地区が少ないといった話があったが、ガス橋通りは、大崎～大山街道・鎌倉道と呼ばれた道であり、途中のカギ状に曲がった地点を「平間の七曲がり」と呼んでいた。また、平間駅の裏にある「銚子塚」は、江戸時代中期の赤穂浪士討ち入りの際に、大石蔵之助が平間の五兵衛なる人の家に泊まり、そのお礼にもらった銚子を塚のやしろに祭ったということに由来している。また市ノ坪周辺では講が多かった。玉川地区には、そのような歴史的魅力がある。（藤嶋委員）
- ・ 玉川地区の魅力として、アミガサ事件の首謀者が奉られていて、紅白の萩がある無量寺や神明大社がある。中丸子緑道・中丸子南緑道・北谷町緑道、市ノ坪緑道なども素晴らしい。ガス橋も歴史的な橋である。民話「鬼げ橋」などもある。（芳賀委員）
- ・ これらの魅力のうち、歴史的なものは私たちが伝えないと無くなってしまう可能性もある。（藤嶋委員）
- ・ 魅力は身近なところに沢山ある。川崎市では、6～7年前に武蔵小杉の愛称として「ムサコ」を決めたのに全く使われなくなってしまった。二子玉川の愛称「ニコタマ」は、最初は反対されたが、今では親しまれている。「ムサコ」が無くなってしまった理由が分からない。振り返る必要がある。（・房副部会長）

- ・ 武蔵小杉の「ムサコ」は委員会で多数決により決定したが、武蔵小山の愛称の「ムサコ」、武蔵工業大学の愛称の「ムサコー」、「むさ苦しい」などと紛らわしいという意見が委員会内でもあった。(芳賀委員)
- ・ 中原の愛称をしっかりと決めたかった。「ムサコ」を振り返って検証してもらいたい。
(・房副部長)
- ・ 「ムサコ」は周囲から反対の意見も多かった。必要ならば、中原区全体のニックネームを付けてもよい。区政〇〇周年で決めていくということも考えられる。(竹井部長)
- ・ ネーミングは自然に発生するのがよい。あせらずに様子を見たらどうか。(鈴木委員)
- ・ 武蔵小杉は駅名で、地名は小杉である。(芳賀委員)
- ・ ネーミングの件は、ここでは取り扱わずに、今後の課題としたらどうか。(鈴木委員)
- ・ 「醬油造り」「そうめん造り」などの産業も昔は矢上川沿いにあった。(芳賀委員)
- ・ 魅力には「歴史的なもの」「自然のもの」と様々分野がある。カテゴリ一別に整理していく必要がある。(鈴木委員)
- ・ 中原区に住んで50年になるが、「なかはらの歌」を知ったのは今年の6月にかわさき市民放送で初めて知った。2回目は、先日の11月3日の中原区青少年吹奏楽コンサートで聴いて感動した。すごく素晴らしい歌なので、区民祭でも放送するなど行政も積極的にPRするべきである。(川連委員)
- ・ 文化協会では、踊りを作り愛用している。区民祭でも披露している。(藤嶋委員)
- ・ 先日も、企画課からCDを2枚もらい、1枚は保育園に届けて活用してもらおうことにした。もう1枚は小学校に届けて、校長先生に渡してきました。素晴らしい歌なので是非、広く知らしめて欲しい。(川連委員)
- ・ 出来た当初は、清掃車で放送したり、町内会に配ったりしていたが忘れられた存在になってしまった。運動会やお祭りで放送するなど、もう1度、広めるべきである。
(・房副部長)
- ・ 「なかはらの歌による魅力の発信・共有」は、行政と区民の協働の取り組みに位置付けている。区民、私たちがどのように広めていくか考えるべきだ。(鈴木委員)
- ・ 聞いたことがない方がいれば、私も積極的に届けていきたい。(川連委員)
- ・ 文化協会では踊りを作って愛用している。私たちの出身団体でも活用していくことを考えたらどうか。PRの機会は数多くある。(鈴木委員)
- ・ 区役所コンサートの前の時間にも流してもよいのではないか。(芳賀委員)
- ・ 今度の区民会議の開会前に流してもよいのではないか。(竹井部長)
- ・ 魅力冊子で紹介する項目について、観光協会など別の団体でも行っているが該当の場所に杭など建てたらどうか。予算もかかるし大変と思うが少しずつ進めたらどうか。(芳賀委員)
- ・ 歴史的なものは、どこに建てたらよいか不明確なものが多い。(・房委員)
- ・ あんまり碑や杭が街に溢れているのも良くないのではないか。(鈴木委員)
- ・ 魅力ある場所は、年齢により魅力を感じるものが異なってくる。誰もが見て魅力とを感じるものを選ぶべきである。(・房委員)

- ・ 写真が趣味なので、これからも中原の魅力を撮っていききたい。撮影したデータは、行政に提供している。(川連委員)
- ・ 写真は魅力を発信するのにインパクトがある。(・房副部長)
- ・ そうすると写真を発信する場所が必要である。(竹井部会長)
- ・ 中原区には、観光ガイドブック的なものが4～5冊もある。一つにまとめられないかと思っている。(・房委員)
- ・ 魅力には多数の分野があり、様々なガイドブックが作られている。これを魅力のインデックスみたいものを作って整理したらどうか。(竹井部会長)
- ・ 地域別、分野別に魅力を漏れなく拾う必要がある。(芳賀委員)
- ・ 現在の中原区の分析も行って、人口がどれくらい増えているのか、若い世代がどれくらい住んでいるのか、産業構成どうなっているのかなども情報として入れ込む必要がある。私たち区民会議で魅力を選んだ際に、どのような時代であったかを後世に伝える際に必要な資料となるのではないか。(藤嶋委員)
- ・ いつでも魅力を出せる場所を作っておいて、だれもが更新できるような仕組みづくりを作れると良いのではないか。(竹井部会長)
- ・ 行政側からは幾つかの提案が出てきている。区民会議が出来ることを提案していかないといけない。(鈴木委員)
- ・ 区民会議では、今出ている魅力に漏れや偏りがないかチェックしていかないといけない。(芳賀委員)
- ・ 一つには、まちづくり推進委員会でも写真を集めているので写真を定期的に発信できる場所があるとよい。もう一つは、身近な魅力を吸い上げる方法と情報を更新する方法が必要である。(竹井部会長)
- ・ 身近な魅力では、一般的でなくなってしまう可能性がある。逆に一般的なものを挙げると何時も同じような魅力になってしまう。(藤嶋委員)
- ・ 区民会議で「魅力を集めていますよ」というメッセージを発信することによって、考えたことがない人が魅力について考えるきっかけになればいい。(竹井部会長)
- ・ 区民祭で「井田山」の写真を紹介していた時に、「井田山」はどこにあるのですかという質問を沢山受けた。「バスでこのように行きます。」と説明すると、「今度、行きます。」と答えた方が多くいました。写真で心を動かされる人も多くいることが分かった。(川連委員)
- ・ 魅力紹介冊子を作成するだけにとどまらず、冊子を活用したガイドにつながるとよい。(芳賀委員)
- ・ 例えば、新たに中原区に住むことになった方が、この冊子をもらって、ここへ行ってみたいと思った時に、ガイドの会が活動していると素晴らしい。(鈴木委員)
- ・ 区民会議で魅力を更新する仕組みを作れるとよい。制度づくりと運用を誰がやるかが問題である。(竹井部会長)
- ・ 今回の課題は「まちの魅力を見つける」ということである。今回は、我々委員が、今の中原にはこのような魅力を感じるというデータを集積するまででいいのではないか。挙げられた魅力の発信方法としては、例えば「写真展」「冊子」「DVD」が

考えられる。(鈴木委員)

- ・ 魅力は時代とともに変わることでは確かであるが、第2期区民会議でベストの魅力を選ぶことで良いのではないか。(芳賀委員)
 - ・ 新しい魅力の選定が必要と感じれば、その時の区民会議で考えればよい。(鈴木委員)
 - ・ 今の時代での魅力をまとめることにしたらどうか。なかなか将来のことまで考えることは難しい。(芳賀委員)
 - ・ 魅力あるまちづくりをするためには、新しい魅力をどう生み出していくかということが大切であると考えている。(竹井部会長)
 - ・ 第2期の区民会議として、このような魅力が大切だとして形に残す。そうしたら、数年後の委員の方々は、第2期の区民会議の委員が選んだ魅力は形骸化しているのもう一度選びなおそうということになるかもしれない。選びなおした時に、再度「多摩川の自然」や「等々力緑地」が選ばれるようなら、それが中原の本当の魅力と言えるのではないか。また、今回出された少数意見についても貴重なものがふくまれていると思う。(鈴木委員)
 - ・ 意外かもしれないが、中原区は犯罪が少ない街である。(藤嶋委員)
 - ・ 魅力からまちへの愛着が出て、それがボランティアにつながっていくような流れにしないといけない。(芳賀委員)
 - ・ 結局は、人を育てないといけない。(藤嶋委員)
 - ・ まちの魅力とともに、魅力を支える人々をいかに増やしていくかということが重要である。(鈴木委員)
 - ・ 本日皆さんからいろいろなご意見をいただきましたので、これを正副部会長で整理して、また運営部会でまとめていくということで、よろしいでしょうか。意見等があれば、事務局までお寄せください。(竹井部会長)
- ⇒異議なし

(3) 第2期検討テーマの進捗状況報告について

○ 事務局：資料4-1、資料4-2に基づき説明

(主な意見)

- ・ 小杉町2丁目では自転車マナーの勉強会を開催していたが現在はどうしているのか。(芳賀委員)
⇒月に1回勉強会を開催している。(・房副部会長)
⇒このような内容も表に載せたらどうか。(芳賀委員)
⇒この表には、細かな内容は載せていない。報告書には内容を盛り込んで掲載していきたい。(事務局)
- ・ 自転車と共生するまちづくり委員会では、地域における放置自転車の実態調査を行っているが、この件もどこかに位置付けできないか。(芳賀委員)
⇒加える方向で検討させていただきます。(事務局)

- ・ 区民会議で提案された取り組み事項の中で実現し難いもの、取り組み難いものをどのように実現していくかが課題である。この問題も運営部会や区民会議で話し合っていきたい。

—午後4時17分 終了—

要約のみ